

# インド：モディ新政権が初の予算案を発表（2014年7月10日発表） 概要と今後の見通し

ご参考資料 2014年7月15日

モディ政権は、新政権発足後、初の予算案（2014年4月～2015年3月）を発表しました。モディ政権の経済改革方針を示すものとして市場の期待を集めていましたが、概ね期待に沿った内容となりました。予算案の概要と今後の見通しについて、ご説明します。

## 2014年度予算案の概要： インフラ整備に重点配分

7月10日、モディ政権は2014年度の予算案を発表しました。経済成長に必要なインフラ整備や産業育成を重視する一方、「ポピュリスト（支持集め）」的な色合いを抑える内容となりました。また、防衛、保険の分野で外資の出資上限を上げるなど、資本流入を促す措置も盛り込まれました。物品税、サービス税などの様々な間接税を一本化した物品サービス税（GST）の導入については、ジェートリー財務相は年内に道筋をつける方針を示しています。

予算案の主なポイントは以下の通りです。

- ▶ 国内総生産（GDP）比の財政赤字の目標を、2014年度は前政権の目標4.1%で据え置き。15年度は3.6%、16年度は3.0%まで削減することを目標とする。
- ▶ インフラ向けの長期貸出の場合、現金準備率（CRR）や法定流動性準備率（SLR）などの規制を適用することなく銀行が資金調達を行うことを許可。
- ▶ 不動産投資信託（REIT）の導入、およびインフラプロジェクトにもREIT同様の仕組みを導入することが可能に。
- ▶ 今年度中に8,500kmの高速道路の建設を目指す。
- ▶ 今年度中に16の新しい港の建設計画を承認。
- ▶ 15,000kmのガスパイプラインを新たに建設。
- ▶ 防衛、保険分野の企業における外資出資上限を26%から49%まで引上げ。
- ▶ 全国一律のGSTの導入を目指す。

## 今後の見通し： 景気回復感が強まるインド経済 企業収益はさらなる改善も

予算案はインフラや銀行、防衛や保険などの分野に恩恵をもたらすと考えられる明確な行程表を示す形となりました。足元で景気回復感が強まるインド経済は、今後はモディ政権による改革の進展により、経済成長率が加速すると考えられます。株式市場は2014年5月にインド人民党（BJP）が歴史的な大勝を収める前から堅調に推移していますが、依然として割高感はなく、経済成長に裏付けられた企業収益の伸びに支えられて、中長期的に堅調に推移することが期待されます。

SENSEX指数とインドルピーの推移



出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。  
期間：2013年1月1日～2014年7月14日。

※当資料はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社が情報提供を目的として作成したものであり、特定の金融商品等の勧誘・販売を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料でもありません。※当資料は信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしも正確性、完全性を保証するものではありません。※当資料には、現在の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、事前の通知なくこれらを変更したり修正したりすることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。※当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来を保証するものではありません。

英国ブルーデンシャル社はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルーデンシャル・ファイナンシャル社とは関係がありません。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第379号／加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会